

森づくり総合計画

企画者名 NPO 法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ

2015年4月作成

1. 基本的な考え方

当法人は、ふおれすと鉱山周辺の里山づくり、鉱山地区の森づくりを地域住民のみなさんと進めております。これは、登別市が2006年3月に策定した「ふおれすと鉱山流里山づくり構想」に基づき、100年後に引き継ぐ里山づくりという目的達成のために進めるものです。

市民、団体、企業、行政は「自然」が人を育てるという共通認識を持ち、各世代が集い「自然」の学びの場として、「自然と人、人と人」が結びつく場として位置づけ、協働により「ふおれすと鉱山流里山づくり構想」の目的を達成していかなければならないと考えます。世代を引継ぎ、どんなに移りゆく世の中であっても、いつでも憩える場が人の心を優しくしていくものであり、多くの人々の関わりは無限の想像力を生み出し、決して金品では得ることのできない「場」を作り出すことにつながると考えています。

里山づくりという過程のなかで得られるものほとてつもなく大きなものです。里山づくりへの関わりを通して、自然と暮らしのつながりから、市民の環境に対する意識向上、また、気づきを促進し、環境保全に対して行動できる人材を育成することが、持続的な根別川流域の森と豊かな水環境と人との多様な関係を構築し、次世代へつなく豊かな環境保全はもとより、地域づくりにつながると考えます。

今後も、市民、地域、企業、団体、行政等と協働し、新たな関わりの創造、そして、地域活性化につながる人づくり、地域づくりへ向けた地域連携の強化を行い、次世代へつなく「ふおれすと鉱山流里山づくり構想」の実現を引き続き実施してまいります。

〈図1 森づくり総合計画イメージ図〉



2. 森づくり総合計画長期スケジュール

森づくり総合計画は、「ふおれすと鉱山流里山づくり構想」に基づき、100年間という長期スケジュールで実施しております。2006年から始まり、10年間を一区切りとして第1期と位置づけています。

〈図2 森づくり総合計画長期スケジュール図〉

1 森づくり総合計画について

○100年間の長期スケジュール



3. 第1期（2006年～2015年）まで実現してきたこと

「ふおれすと鉱山流里山づくり構想」の基本的な考え方において、ふおれすと鉱山をとりまく森林を二つに区分し、『ふおれすと鉱山の森』7ha（市有地）＝入門用の森、『鉱山地区の森』（民有地、国有林を含む）＝達人の森と位置づけています。

第1期期間内に構想に基づき、実現してきたことを以下にまとめました。

(1) 『ふおれすと鉱山の森』（里山ゾーン・市有地 7ha）

- ①里山ゾーンのササ刈り、下草刈りを実施し、小さなお子さんでも安心して遊べる見通しのよい森づくり
- ②里山の生活体験ができる「炭焼き小屋」、かまどのある「里やま亭」づくり
- ③間伐材を利用した小屋づくり（森のおうち、森トンハウス、モモンガハウス）

④学校の授業等で利用できる森の教室「野外学舎てらこや」づくり

⑤100年前の水路を活用した水車づくり

⑥様々な世代が里山で遊べる水辺のあそび場「ちびっ館ひろば」、ツリーハウス、あずまや「ジュニぼー」の設置

⑦市民が定期的に里山づくりに参画するプログラム「里山づくりの日」等の企画・運営
一学校団体や市民を対象にした環境教育の実施

⑧間伐材を利用したきのこ栽培

⑨次世代へつなげる「「こころのもり」への植樹

<写真1 『ふおれすと麓山の森』の活用>



下草刈で見通しのよい里山ゾーン



里山生活体験「炭焼き小屋」



里山生活体験「里やま亭」



間伐材を活用した「モモンガハウス」



間伐材を活用した「森のおうち」



間伐材を活用した「森トンハウス」



環境教育の拠点「野外学舎てらこや」



水路を活用した「水車」



様々な世代が遊べる「ちびっ盆ひろば」



もりりんひろばの「ツリーハウス」



あずまや「ジュニぼー」



里山は、環境教育の場



きのこのほだ木づくり



植樹ゾーン「こころのもり」

(2) 『鉱山地区の森』(国有林、民有地、遊々の森)

- ①登別市と森林管理署が提携を結んでいる遊々の森内に散策路をつくり、「カマンベツ木もれびの森」居場所づくりの整備
- ②横別川沿いに「カマンベツ木もれびの森フットパス」を整備
- ③学校団体や市民を対象にした環境教育の実施

〈写真2 『鉱山地区の森』の活用〉



「カマンベツ木もれびの森」



「カマンベツ木もれびの森フットパス」



フットパス整備



環境教育の実践の場

これらは、「ふおれすと鉱山流里山づくり構想」の今後100年の大計として書かれている事項を具現化しています。

〈参考 ふおれすと鉱山流里山づくり構想体系図〉

『ふおれすと鉱山流里山づくり構想』2006年3月登別市策定より引用

ふおれすと鉱山造里山づくり 構想体系図

～ふおれすと鉱山造里山づくりの構想～

ふおれすと鉱山造里山づくり「ふおれすと鉱山の森」と鉱山地区の森（湧出林、湧出林）をリーニエラを行う

（ふおれすと鉱山の森づくり）



尚、上記の活動は、市民（モモンがくらぶ環境保全チームが中心）や地域企業との協働により実現してまいりました。

〈表1 森づくりへの市民、地域企業の関わり〉

	開始年	人数	主な活動
デカタピレンジャーチーム	2008年～	6名	○チーム活動/里山手入れ（月1回） ○プログラム提供/ふおれすと鉱山造里山づくりの日（月1回）
つな環チーム	2010年～	9名	○チーム活動/遊々の森整備（月2回） ○プログラム提供/森からつながる環境保全（年3回）
里マイチーム	2012年～	6名	○チーム活動/かまど小屋整備・水車づくり・薪割り他（月3回） ○プログラム提供/里山の暮らしを伝えるプログラム（年3回）
里マイジュニアーズチーム	2013年～	21名	○チーム活動/ちびっ鉱ひろば整備、里山づくりの日サポート
北碓建設株式会社	2010年～		鉱山地区の利用についてご協力

株式会社草壇建設様	2012年～	里山の下草刈り
フィリップモリス ジャパン様	2007年～	里山の手入れ、小屋づくりサポート、プログラムサポート
自衛隊曹友会様	2009年～2012年	里山の手入れ

4. 第2期目以降に向けた短・中期計画について

2015年度は、第1期の成果をまとめ、第2期目へ引き継ぐ年です。森林の整備計画、活用方針は以下の4つを柱に実施いたします。

- 里山づくりの強化
- 地域との関わり
- チームの活性化
- 新しい人材・ネットワークの確保

具体的な計画として、里山づくりの拠点小屋整備、新しい散策路の整備、3世代交流「ちびっ広ひろば」の整備など、魅力ある里山ゾーンづくりを目指します。

〈図3 2015年度活動計画〉

3 2015年度に実施する活動計画

2015年度は第1期から第2期へ引き継ぐ年



森林の整備計画や活用方針

基本の柱はこれ！

10年間の成果をカタチに！

〔森づくり総合計画、里山ゾーンの充実、人材育成〕

- 里山づくりの強化
- 地域との関わり
- チームの活性化
- 新しい人材・ネットワークの確保

里山の拠点小屋
づくり・野草の小
径整備

コーザンヒーク～
旧道散策路整備

三世代交流「ち
びっ広ひろば」の
整備

新たなネット
ワーク（地域/企
業）づくり

また、登別市をはじめとする行政、企業、市民、団体などと連携し、中期計画作成に向けた情報共有の場を設けてまいります。

〈図4 2015年度森づくり総合計画懇話会イメージ図〉

3 2015年度に実施する活動計画

〇地域のみなさんが関わる「里山づくり」を実現するために、市民・企業・行政・団体・専門家・専門NPOが話し合う場「森づくり総合計画懇話会」を立ち上げます。

